

外 国 語

『英語（リーディング）』

第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

1 前文

令和8年度共通テスト（以下「本テスト」という。）の『英語（リーディング）』の受験者は、本試験と追・再試験を合わせて455,738人で、受験者全体の約98.2%に当たる。

本テストの問題作成方針では、平成30年告示の学習指導要領を踏まえて、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて必要な理解力を「リーディング」形式の問題を通して測るとともに、それを通してコミュニケーションを支える知識や技能についても測り、総合的な英語力を評価することをねらいとしている。

これらのことを踏まえ、追・再試験の問題について、報告書（本試験）15ページに記載の8項目の観点により、総合的に検討した。

2 内容・範囲

本テストは、受験者が高等学校での外国語の授業（「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」「論理・表現Ⅰ」等）で学ぶ内容・範囲を網羅しており、「リーディング」形式を通して高等学校段階で身に付けた総合的な英語力を測るものとしておおむね適切であった。日常的な話題から科学的な話題や社会的な話題まで幅広く取り上げられており、場面や状況の設定も受験者が想像しやすいよう工夫されていて、実際のコミュニケーションにおいて英語を運用する力を測ることができるように配慮されている。学習指導要領で求められる、「主体的・対話的で深い学び」を経験してきた受験者が、高等学校段階で学習した語彙や文法の正しい知識を基に、コミュニケーションの目的に応じて英文を読み、思考力・判断力・表現力等を発揮しながら概要や要点を捉えたり、情報を活用して推測したり再構築したりする内容となっている。

第1問 2つの研修旅行の行程が記された資料から、目的に応じてそれぞれのツアーの特徴や共通する内容を読み取ったりするなど、必要な情報を適切に読み取る力が問われている。

第2問 大学が提供するサービスの中止に関わる告知とそれに対するコメントを読み、情報を正確に読み取る力や、事実と意見を区別して読み取る力が問われている。

第3問 架空の物語を読み、人々の反応の変化を適切に読み取る力や、あらすじを正確に読み取る力が問われている。

第4問 音楽が及ぼす良い影響について書かれた意見文の原稿とそれに対する教師のコメントを読み、抽象的な情報を具体化したり英文としての一貫性を高めるために英文を書き換えたりするなどして推敲する力が問われている。「書くこと」を意識した出題である。

第5問 日本の文化に関するEメールでのやり取りと、その内容に関連した資料（ブログ）を読み、要点を適切に読み取る力や、複数の情報源を整理して読み取る力が問われている。

第6問 複数のエピソードが含まれ、展開が時系列ではない物語を読み、登場人物の特徴や関係性、場面の前後関係を正確に読み取る力、また、具体的な情報を抽象化する力が問われている。

第7問 科学的な文章を読み、情報を正確に読み取り、要点を適切にメモにまとめる力や科学者が

用いた手法の手順を適切に読み取る力が問われている。

第8問 社会的な対立点を含む複数の意見を読み、それらの要点や共通点を正確に読み取る力が問われている。また、図表を含む複数の資料から読み取った内容に基づき、自分の考えを作文の構想メモとしてまとめる構成となっている。

3 分量・程度

出題範囲としている科目の目標及び内容等に対応したものとなるよう、教科書で用いられる英文の分量・難易度に準じた問題文を扱っている。各大問においては様々な難易度の設問がバランス良く配置されている。設問数は昨年度と同じであった。全体の分量は試験時間に照らして適切に調整されていた。

第1問 約210語で3つの設問。研修旅行の2つの行程の比較は、適切な量の情報が分かりやすく比較されており、英文も平易である。問2は、Tour 2の具体的な活動内容から適合する参加者像を抽象化することを受験者に求めているが、思考力を問う設問として適切な負荷である。

第2問 約290語で4つの設問。自転車貸し出しサービス終了の告知として分量・難易度共に適切である。代替の店に関する情報も簡潔に示されており、英文の難易度は設定に対して適切である。設問も、本文の的確な読み取りを求めるもので、難易度は適切である。

第3問 約290語で3つの設問。本文の分量は適切で難易度も高くはないが、架空でありつつ現実のテーマに基づく内容なので、背景知識に依存しすぎると誤読する可能性があるという点で注意深い読み取りが求められる英文であった。設問は、本文に直接的な根拠を求めることができるため比較的平易であったが、語彙の正確な知識が求められる面もあった。

第4問 約250語で4つの設問。作文を推敲する形式で、5つのパラグラフで構成される文章としては適切な分量である。身近な内容であるため文章は読みやすく、Commentsも平明である。設問の難易度は標準的であった。

第5問 約640語で5つの設問。3つのテキストを互いに関連付けながら理解する必要がある。テーマは受験者になじみがあり、英文の難易度は標準的である。一方で、設問に正答するためには背景知識に依存せず注意深く読むことが求められた。

第6問 約650語で4つの設問。物語文として分量は適切である。複数のエピソードそれぞれについて出来事の前後関係を整理する必要があるが、その点の理解を問う問2はやや難易度が高かった。一方で、発表のためのメモは読解を助ける働きをしており、他の設問の難易度は適切であった。

第7問 約680語で5つの設問。本文の分量は、科学的なテーマについて一定のまとまった情報を伝える文章として適切である。難易度については、内容の専門性に依拠して硬い表現が使われていることなどからやや難しいが、第7問として適切な難易度と言える。設問も本文の正確な理解を求めるもので難易度は適切であった。

第8問 約710語で5つの設問。実社会でも議論のあるテーマについて複数の情報源を適切に読み取ることが求められ、実際的な思考力を必要とする問題であった。英文は語彙の面でテーマに即した表現が多く使われ、難易度が高い。設問は、資料の適切な読み取りを求めるもので難易度は適切であった。

4 表現・形式

学習指導要領に示されている外国語科の目標及び問題作成方針に沿って、実際的なコミュニケーションにおける話し手や書き手の意図や、概要・要点を的確に理解する力を測ることのできる場面・状況が適切に設定されている。出題されたテキストのジャンルは多岐にわたっており、イギリス英

語の表記が用いられるなど英語の多様性にも配慮がある。文章表現・用語や図表・イラストはおおむね適切かつ効果的に使用されている。配点も適切である。

第1問 研修旅行での2種類の行程を比較し、いずれかを選択するという設定である。設問や配点は第1問として適切であった。問2は行程中の具体的な語を抽象化することを求めており、思考力を問う良問であった。

第2問 イギリスの大学での自転車貸し出しサービス終了に関する告知を大学ウェブサイト上で読んでいるという設定である。日付の表記やhire a bicycle, £などイギリス英語が使用されている。終了に伴う代替サービスが箇条書きになっており、実際の使用場面に即している。

第3問 英語の授業で架空の短編物語を読むという設定である。マイクロプラスチックを扱っており、背景知識を有する受験者もいると思われるが、架空の物語のため意外性もあり丁寧に読む必要があった。

第4問 英語の授業で、音楽が及ぼす良い影響についての作文を、教師の指導を受けて改稿するという設定である。第1パラグラフで“Listening to music can positively affect people in the following three ways.”と述べ、Overall commentsにおいても教師が“We can benefit from listening to music”と書いているので、文章全体のテーマはlistening to musicである。しかし、2番目と3番目の論点はそこから外れており、一貫性に欠ける文章となっている。また、1番目と2番目の論点は音楽全般に当てはまることであるのに対し、3番目は一部のみ当てはまることであり、バランスを欠いている。さらに、示されている論点が3つなのに対してnumerousという表現には違和感がある。ただし、これらは、実際に学習者の作文ではよく見られるものなので、設問にはしないコメントで不備を指摘するなどの形式をとることができるのではないかと。

第5問 これから日本で留学生として受け入れる予定のイギリス人学生とEメールのやり取りをしているという設定である。Eメールのほかに、日本での落とし物が見つかりやすい理由や見つかる割合の高さなどを伝えるブログが紹介されている。イギリス英語の表記が使用されている。留学前のEメールのやり取りで日本とイギリスの文化の違いを比較しているのはやや唐突に感じられるが、複数の素材から情報を読み取って統合する必要があるため、思考力が問われる問題であった。

第6問 英語の授業で物語文を読み、発表のために要点を整理するという設定である。時系列が入れ替わったり、ケンとヒロの群像劇のような体裁がとられたりしているためやや複雑に思われるが、適切な表現の使用と発表のためのメモが本文理解を助けている。問2では時系列の理解が求められているが、物語という文章の性質を考えると主人公の感情の変化を捉えるなどの工夫があっても良いと思われる。

第7問 理科の授業で蚊についての発表をするために関連記事をスライドにまとめているという設定である。語彙はやや難しいものも含まれるものの、本文中から意味内容を判断できるようになっており、適切である。問2では、本文の内容を言い表すのに適切な表現が使用されている。

第8問 オンライン投票というテーマについて異なる意見を読んで異同を整理した上で自らの立場を決め、資料に基づき意見文を書くという設定である。視点に応じた情報の適切な読解を求めている。問3は[Step 1]での様々な立場の人物によるそれぞれの意見から関連する語を読み取り、言い換えられた語を判断する必要があるため、思考力が問われている。

5 まとめ（総括的な評価）

本試験同様、昨年度大きく変更された問題形式、分量をおおむね踏襲して作成されており、大学教育の基礎力となる知識・技能や思考力・判断力・表現力等を評価することができるように、出題

に工夫がなされている。平成30年告示の学習指導要領を踏まえた試験として妥当であった。高等学校において、「聞くこと」・「読むこと」・「話すこと [やり取り], [発表]」・「書くこと」を統合した英語での言語活動を通じて育成された知識・技能、思考力・判断力・表現力等を様々な方法で測るべく、多様な問題が設定され、背景知識の有無に関わらず、英文をしっかりと読むことが求められた。実在の資料を使用する等、新たに加えられた試みも評価する。ただし、一部設定が不自然に感じられる設問があり、実際の言語使用をより適切に踏まえた出題をお願いしたい。

設問の設計については、全体を通じて問題作成方針に則しており、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解する力を「リーディング」形式の問題を通して測るとともに、それらの力を問うことを通して、コミュニケーションを支える基盤となる語彙や表現、文法等に関する知識や技能についても測り、受験者の読むスピードだけでなく総合的な英語力を評価するテストとして適切であったと言える。読みながら帰納的抽象化を求められる設問や、メイン・サブストーリーを読み分け、それぞれにおいて時系列を整理するなど複雑な思考が求められる設問など工夫が見られた一方で、一部の設問において本質的な問いとは言い難いものも見られたことから、英文の内容や目的、場面に応じた必然性のある設問をお願いしたい。

題材については、日常的な題材から科学的な題材、あるいは論争のある社会的な題材まで、幅広く取り上げられている。テキストの形式も、ウェブサイト、メール、ブログ、記事など多岐にわたっており、様々な場面での英語力を測る工夫がなされている。また、タイプの違う物語文が2つ出題されるなど、いわゆる説明的文章や実用的文章に偏らない配慮がなされている。場面に応じてイギリス英語の表記が用いられるなど英語の多様性に対する配慮もある。ただし、第5問では、日本にこれからやって来る留学生とのやり取りという場面設定に対して、題材はやや不自然に感じられた。

出題の内容や形式については、昨年度同様、目的に応じた情報の読み取りや概要・要点の把握、事実と意見の区別、文章と図表との複合的読み取り、作文の改稿や複数の情報源を基に自分の考えをまとめる設定の出題があった。本年度は、第5問のように、複数のテキストを正確に読み比べて情報を整理する設問があるなど、より多様な出題がなされた。大問ごとに実際のコミュニケーションを想定した目的や場面、状況が設定されるとともに、題材や設問は、高等学校における「主体的・対話的で深い学び」を志向した授業における学習過程に配慮され、教科横断的な要素も含まれており、授業改善に向けたメッセージ性も感じられる。なお、「読むこと」と「書くこと」の技能統合を意識した出題では、高等学校教育への波及効果に十分に配慮すべきである。高校生が書いた作文であるということを考慮しても、他にコメントを付すか、設問以外の部分は適切な表現や構成の英文の使用を求めたい。

体裁については、全体的に受験者が取り組みやすいレイアウトとなるように配慮がなされている。イラストについても英文理解を効果的に補助するものとなっている。

全体としては、本年度の出題は上述の通りおおむね適切であったと言える。来年度以降も、更なる改善を志向しつつ、引き続き安定して適切な出題がなされることをお願いしたい。